

花芽分化期の生育抑制によるスプレーギク花房形状の改善

〔研究のねらい〕

スプレーギクでは花芽分化期に生育が旺盛な場合、花房形状が乱れ品質低下の原因とすることがあります（図 1）。そこで、花房形状の乱れやすい「セイアルプス」を用いて電照打ち切り後の花芽分化期における生育抑制処理と花房形状の関係を明らかにします。

〔研究の成果〕

- ①電照打ち切り後のかん水中断期間が短く（8日間）、花芽分化前にかん水を行うと正常花房率は低下します。かん水中断期間を長くすると正常花房率は上昇しますが、あまり長くなりすぎる（22日間）と切り花長が短く切り花重が軽くなるため、14日間程度の処理が適当です（表 1）。
- ②遮光処理では、遮光率 60%以上で高い花房形状改善効果が得られます。ただし、75%以上では切り花長および切り花重が減少し、切り花品質が低下するので注意が必要です（図 2）。
- ③下葉 8 枚程度の摘葉処理によっても花房形状はよくなります（図 3）。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①花芽分化期の生育抑制処理により花房形状が改善され、高品質生産につながります。
- ②かん水中断処理では天候や土壌条件で、遮光処理では季節により効果が異なるので注意します。

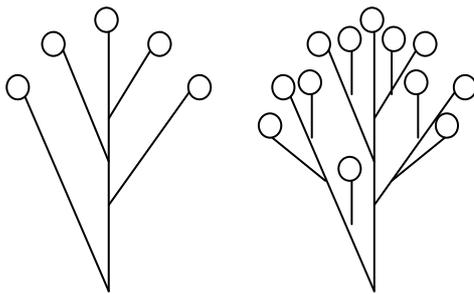


図 1 正常花房(左)と乱花房(右)の模式図

表 1 花芽分化期のかん水中断期間と切り花品質

かん水中断期間	正常花房率 (%)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)
8日	12.5	118	80
14日	50	118	77
22日	57.5	107	74

電照打ち切り日：9月4日

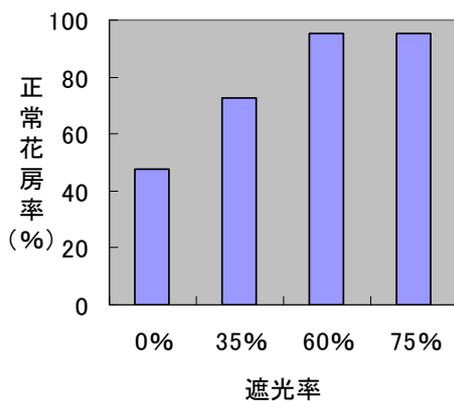


図 2 花芽分化期の遮光処理と正常花房率

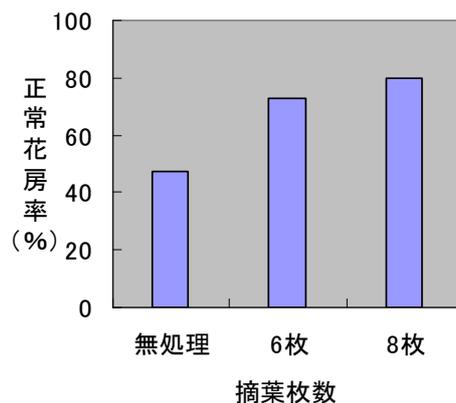


図 3 花芽分化期の摘葉処理と正常花房率

実施年度：平成 5～7 年度
担当者：本田孝志・上島良純